

予 算 要 求 資 料

令和5年度当初予算

支出科目 款：衛生費 項：公衆衛生費 目：調査指導費

事業名 レジオネラ属菌対策強化事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

健康福祉部 生活衛生課 衛生指導係 電話番号：058-272-1111 (内3416)

E-mail：c11222@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 1,386 千円 (前年度予算額：1,345 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	1,345	0	0	75	0	0	0	0	1,270
要求額	1,386	0	0	75	0	0	0	0	1,311
決定額									

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨（現状と課題）

レジオネラ属菌は土や水の中に広く生息する常在菌で、循環式浴槽などの設備において増殖することがあり、シャワーやジャグジーなどを利用した際、水の微粒子に乗ったこの菌を免疫機能や抵抗力が低下している高齢者や病人が吸い込むと、咳や腹痛、発熱を伴うレジオネラ症を発症することがある。

県内のレジオネラ症患者の発生を防止するため、循環ろ過装置付きの入浴施設のレジオネラ属菌の生息状況実態調査を継続的に実施し、患者が発生した場合には、感染拡大を防ぐため、患者が利用した入浴施設に対する調査を迅速に実施している。

(2) 事業内容

ア レジオネラ実態調査

- ・ 県内入浴施設への清掃等衛生管理状況の聴き取り及び、浴槽水・シャワー水等の採水による水質調査（R3年度65施設、93検体を調査）

イ レジオネラ症患者発生時調査

- ・ レジオネラ症患者が発生した際、発病前10日間以内に利用した公衆浴場等の施設調査（聴き取り、衛生状態の検査、水質検査等）を実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

旅館業法及び公衆浴場法に基づき、県が実施する業務であり、県負担が妥当。

(4) 類似事業の有無
無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	27	検体搬入にかかる旅費
需用費	1,350	検査用品費
役務費	9	通信運搬費
合計	1,386	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 事業主体及びその妥当性

・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（第35条）に基づき、県が感染の可能性のある施設への調査・指導を実施する。

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

入浴施設のレジオネラ属菌の汚染状況を把握し、レジオネラ症の発生を未然に防ぐ。また、レジオネラ症患者が発生した場合には、速やかに利用した施設に立ち入り、衛生措置の状況を確認するとともに、浴槽水の水質検査を実施することにより、原因の早期特定と再発防止を図る。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R3年度 実績	R4年度 目標	R5年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①レジオネラ属菌 生息状況等実態調 査検体数	-	93検体	100検体	100検体	/	98.0%

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和 2 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等） レジオネラ属菌の生息状況等の実態調査のため、県内の入浴施設において立入調査のうえ浴槽水を採水し、水質検査を実施した。 また、レジオネラ症患者が利用した施設に早急に立ち入り、衛生措置の状況を確認するとともに、迅速検査法を含む浴槽水の水質検査を実施した。 ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果 70の入浴施設に対し、立入調査及び浴槽水・シャワー水98検体の検査を行い、レジオネラ属菌による汚染状況を把握した。 また、レジオネラ症患者が利用した施設に立入し、令和2年度は26検体について各検査を実施した。
	指標① 目標： <u>100検体</u> 実績： <u>98検体</u> 達成率： <u>98%</u>
令和 3 年度	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の活動内容（会議の開催、研修の参加人数等） レジオネラ属菌の生息状況等の実態調査のため、県内の入浴施設において立入調査のうえ浴槽水を採水し、水質検査を実施した。 また、レジオネラ症患者が利用した施設に早急に立ち入り、衛生措置の状況を確認するとともに、迅速検査法を含む浴槽水の水質検査を実施した。 ・前年度の取組により得られた事業の成果、今後見込まれる成果 65の入浴施設に対し、立入調査及び浴槽水・シャワー水93検体の検査を行い、レジオネラ属菌による汚染状況を把握した。 また、レジオネラ症患者が利用した施設に立入し、令和3年度は33検体について各検査を実施した。
	指標① 目標： <u>100検体</u> 実績： <u>93検体</u> 達成率： <u>93%</u>
令和 4 年度	令和6年度当初予算にて追加
	指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・ 事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) <small>3 : 増加している 2 : 横ばい 1 : 減少している 0 : ほとんどない</small></p>	
(評価) 2	<p>県民が安全に安心して入浴できるよう、入浴施設におけるレジオネラ症の発生防止及び発生時の早急な対応に向けた衛生確保対策の強化が求められており、事業の必要性が高い。</p>
<p>・ 事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) <small>3 : 期待以上の成果あり 2 : 期待どおりの成果あり 1 : 期待どおりの成果が得られていない 0 : ほとんど成果が得られていない</small></p>	
(評価) 2	<p>3年周期で循環ろ過装置が整備された全ての入浴施設の調査を実施しており、県内の入浴施設の水質状況を把握している。</p>
<p>・ 事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) <small>2 : 上がっている 1 : 横ばい 0 : 下がっている</small></p>	
(評価) 1	<p>過去にレジオネラ属菌の発生が確認された入浴施設について、3年の周期より期間を短くして調査するなど、効率的かつ効果的な施設調査を実施している。</p>

(今後の課題)

<p>・ 事業が直面する課題や改善が必要な事項 調査頻度を高めるため、検査をより効率的に実施するとともに、業務に初めて従事する職員でも適切に調査ができるよう、要領を見直していく必要がある。</p>

(次年度の方向性)

<p>・ 継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 安全・安心な入浴施設の利用のため、今後も継続して実施することが必要な事業である。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	【〇〇課】
<p>組み合わせる理由 や期待する効果 など</p>	